

校長メッセージ 第3号

臨時休業もずいぶん長くなりました。今、いちばん心配なのが「子どもたちの健康や学習の様子」です。家にいることで、かなりのストレスを感じている子どもがいます。お子さんの様子はどうでしょうか。また、課題も終わってしまったし、ネット授業も見終わったという子どもたちも多いようです。

今は、こちらからご家庭に出向いていける状態ではないので、お手数ですが、メールを使ってお子様の様子をお知らせいただくとありがたいです。件名に学年・組と児童名をお書きになって

- ・ 現在の健康状態で心配なこと
- ・ 学習に関して困っていること
- ・ 友達とのかかわりや遊びなどで気になること

などについてお知らせください。また、心温まるエピソードがありましたら、ぜひ、こちらへ投稿してください。

アドレスは kawakamikitashou@gmail.com です。全部の質問や相談についてお答えするのは難しいと思いますが、担任や児童支援専任、養護教諭等にも内容を伝え、できる範囲でホームページでの回答やメールで返信するなど、少しでもお役に立てれば良いと思います。

ただ、他の人を誹謗中傷する内容や公立学校としてできないことに対しては投稿を控えていただきたいと思います。

このところ、いろいろな報道を見ているとマナー破りのようなことが頻繁に起きています。ただ、それを報道することによって、「そういうことをやっている人がいるから、自分もやって良い。」と勘違いしてしまうケースがあり逆効果となることがあるため、報道する側の姿勢が問われるという識者の意見があります。「このようにいけない例があるので、やめましょう。」という警鐘を鳴らす意味での報道なのですが、逆にとらえてしまう人が増えているらしいのです。この校長メッセージも、その逆効果にならないと良いのですが。

そして、気になるのが、コロナ差別といわれる誹謗中傷や職業差別です。医療関係者がタクシーに乗車拒否された、長距離トラックの運転手が暴言を吐かれたなどの事例が挙がっています。また、その家族に対しても仲間はずれにしたり、根拠のない噂を流したりする行為があるようです。最前線で私たちの生活を守ってくれている方々に対しての、そのような行為は怒りさえ感じます。

しかし、レストランのシェフが医療関係者にお弁当を作って差し入れたり、スポーツ選手が在宅でできるトレーニング方法を公開したりするなど、温かい行動もたくさん目にします。ある街では医療関係者に拍手を送る行動をしたところもあります。温かい心を届けようとする人がたくさんいることも忘れてはなりません。

川北の子どもたちが温かい心を持ち、小さなことでも良いので、自分たちにできる活動を行うことで新型コロナウイルスに打ち勝ってほしいものです。